

豆類技術情報 No. 3

平成29年7月28日

大豆生産者各位

J A大潟村営農支援課
大潟村豆類生産組合

今後の管理について

本作大豆は7月の天候が不安定であったため、播種日及びほ場条件により生育差が大きくなっております。先日の大雨により葉色の黄化といった湿害の症状が目立っておりますので、草勢回復のため、尿素でN成分2kg/10aの追肥を実施し、条播ほ場では培土を実施してください。

6月上中旬に播種したほ場では、まもなく開花始期に入りますので、N成分3~4kg/10aを目安に追肥し、生育確保に努めて下さい。

また、ウコンノメイガといった食葉性害虫の発生が例年より早く確認されておりますので、食害が多い圃場では防除に努めてください。茎葉除草剤散布については技術情報 No.2 をご確認ください。

1. 害虫防除（ウコンノメイガ、ハスモンヨトウ、マメシンクイガ対策）

①トレボン粉剤DL 10aあたり4kgを散布。

②トレボン乳剤

10aあたり水量150~300Lに対し、薬液150~300mlを希釈して散布。

③プレバソフフロアブル5

10aあたり水量100~300Lに対し、薬液25~75mlを希釈して散布。

2. 浸水・冠水ほ場での対策

①第一にほ場の排水をはかります。畝の方向で停滞水が残るほ場は、畝を切って近い明渠へ導水します。茎葉の損傷などが発生した場合、細菌病等の発生源になりやすいので、排水が進んだら直ちに防除（茎疫病対策 Zボルドー粉剤DLを3kg/10a）を行います。葉に泥が付着している場合は、光合成作用を阻害するため、防除と作物の洗浄を兼ねて実施します。薬剤は基準の範囲内で濃度を下げ、散布する薬液量を多くすることで株全体に薬剤が付着するように作業します。

②開花前的大豆は、中耕・培度によって新根の発育を促し、草勢の回復を図ります。同時に追肥を行う場合、10aあたり2~4kg（窒素成分）を散布し培土します。また、冠水による被害軽減のための殺菌剤散布を行う場合は同時に尿素による葉面散布を行うことも可能です。

（尿素現物1kgに対し、水量100L/10a）

※日照不足により草勢が低下していることから、薬害が発生しやすい状況となっております。薬剤防除の際には薬害に十分注意し、気温の低い早朝や夕方の時間帯に散布するように心がけてください。日差しが強30℃を超える日の散布作業は夕方に行いましょう。

裏面に続く

事務連絡
平成29年7月28日

農業者各位

大潟村地域農業再生協議会
事務局

7月16日及び22日から23日の豪雨による作付作物の冠水被害への経営所得安定対策等交付金に係る対応について

このことについて、先週から今週にかけての豪雨による、河川氾濫や冠水による甚大な被害が県内で発生しているところです。

村内においても、ほ場冠水による作物生育への影響、取りわけ、播種時期直後の大豆や収穫時期を間近に控えたカボチャ等の状況が心配されます。

経営所得安定対策等交付金については、冠水被害によって、交付対象作物の収穫、出荷、販売を行うことができず、出荷販売状況がわかる書類を提出できなかった場合、

①その原因が自然災害等によるものであることが交付申請者の提出書類で確認できること。

②自然災害等の発生以前は通常の肥培管理等が行われていたことが確認できること。
を条件として、当該自然災害等が発生した年産に限り、交付金の交付対象とすることができるとなっております。

上記の具体的な確認書類として、

①種子の購入伝票（写）

②栽培日誌等の生育管理が解るもの

等となりますので、記録、保存くださるよう十分にご留意願います。

また、

生育の状況によって、やむなくすき込み等を検討している方は、地域農業再生協議会や国の現地状況確認が必要となりますので必ず事前にご連絡くださるよう重ねてお願いいたします。

問い合わせ先：大潟村地域農業再生協議会 事務局

大潟村産業建設課 担当：石川（TEL 45-3653）

J A大潟村営農支援課 担当：伊藤（TEL 45-3033）